

学生によるプロジェクトの事例報告

牧口 千夏（京都国立近代美術館研究員）

京都国立近代美術館では、近隣の教育機関と連携してさまざまな学習支援活動を行ってきました。美術館が既成のプログラムを用意するのではなく、利用者それぞれの学習目的に即した希望に対して美術館が個別に応じ、その実現に向けて可能な限り支援し協力する、というかたちをとってきました。

今回の発表では、発表者が担当した展覧会「ノイズレス 鈴木昭男＋ロルフ・ユリウス」（2007年 京都国立近代美術館）の準備段階において実施された、立命館大学産業社会学部のゼミ生によるプレプロジェクトについて、大学の授業における美術館活用の一例として紹介し、その実施内容についての報告を行います。

1. 京都国立近代美術館の学習支援活動

美術館側の希望

- ・美術館がありきたりの鑑賞教育の場ではなく学習の現場として活用されること
- ・高校や大学の授業やゼミの現場としての可能性を探る

2. 展覧会と授業の交差点—ノイズレス展プレプロジェクト「facing / 向かい合うために」

（関連 URL：<http://www.momak.go.jp/Japanese/education/2006/noiselessPreprojects.html>）

初期設定

- ・ノイズレス展企画者から、展覧会の進行過程を学生の授業の場として活用したいとの提案
→立命館大学の学生を中心に運営、美術館が授業の進行に協力

実施内容

- ・鈴木昭男氏（ノイズレス展招聘作家）を迎えての公開ゼミ開催：月1回・美術館講堂
- ・展覧会会期中ゼミの成果発表として学生による二つの企画を実施